

《2017年度「お客さま本位」の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）の取組状況》

ちばぎんアセットマネジメント株式会社（以下、「弊社」）は、お客さま本位の業務運営を強化するため、2017年6月30日に『「お客さま本位」の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）に関する方針』を策定・公表しました。

この方針のもと、弊社は、お客さま本位の取組みを強化していますが、こうした取組みを分かりやすくお伝えするため、2017年度の取組状況を具体的な指標とともに公表します。

【ちばぎんアセットマネジメントの取組状況】

お客さまの最善の利益の追求、従業員に対する適切な動機づけの枠組み等

- 投資先企業の企業価値向上及び弊社運用ファンドのパフォーマンス向上を図るべく、ファンドマネージャー及びアナリストによる投資先企業との面談・対話を積極的に実施しております。[図①]・[図②]
- 専門知識を有する人材の育成のため、社内勉強会の開催や、従業員の外部研修への派遣等を実施しております。

[図①] 公募日本株ファンドの過去のパフォーマンス

ファンド名	設定年月日	騰落率（分配金込み）	
		1年	設定来
日本株好配当ファンド（年1回決算型）	2016年7月29日	16.30%	36.92%
日本株好配当ファンド（年2回決算型）	2016年7月29日	16.50%	37.01%
(参考)TOPIX（配当込み）		15.87%	36.77%
ファンド名	設定年月日	騰落率（分配金込み）	
		1年	設定来
日本中小型株ファンド	2017年7月31日	—	20.90%
(参考)TOPIX小型（配当込み）		23.48%	11.39%

※騰落率は、2017年度末（2018年3月30日）時点のものを記載しております。

※TOPIX(配当込み)及びTOPIX小型(配当込み)は、上記各ファンドのベンチマークではありません。

あくまで参考としてお考えください。

〔図②〕 企業との面談・対話の活動件数



※上記の企業面談件数は、調査対象企業と個別に対話を行った件数です。
決算説明会参加等の調査件数は含めておりません。

利益相反の適切な管理

- 商品組成のプロセスを整備し明確化すべく、社内マニュアルを見直しました。
 - スチュワードシップ責任を果たす上で利益相反が生じ得る局面を特定し、回避するための方針を策定・公表しました。コンプライアンス部門は、これに基づきお客さまの利益が損なわれることがないように、モニタリングを実施しています。
 - 議決権行使については、その透明性を高めるため個別議案毎の行使結果の開示を開始しました。〔図③〕
- なお、議決権行使の基本方針は、下記URLにて公表しております。

<http://www.chibagin-am.co.jp/company/operation/basic/>

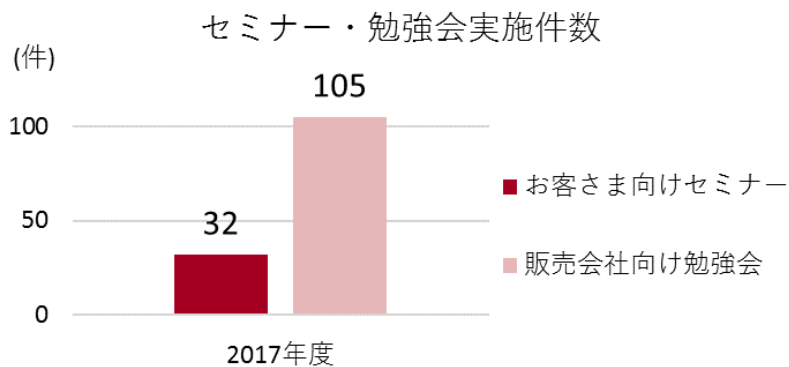
〔図③〕 議決権行使状況（2017年7月～2018年3月）



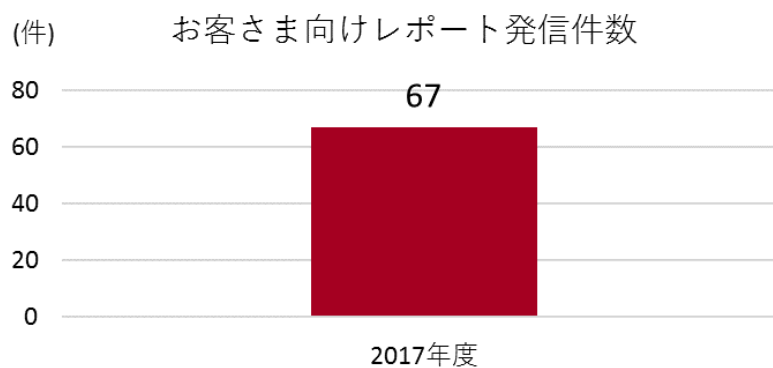
手数料等の明確化、重要な情報の分かりやすい提供

- お客さまの資産形成や投資判断に有用な情報を提供すべく、お客さま向けのセミナー、販売会社向けの勉強会の実施を継続しています。[図④]
- 主要販売会社を通じ、市場動向等についてのお客さま向けレポート（「投資環境ウィークリー・レポート」、「CAM マンスリー」、「臨時レポート」等）を定期的に発信しています。[図⑤]
- 弊社運用ファンドの特徴を、お客さまに直接、かつ分かりやすく説明できる体制づくりのため、第二種金融商品取引業の登録を行いました。

[図④] お客さま向けセミナー、販売会社向け勉強会実施件数



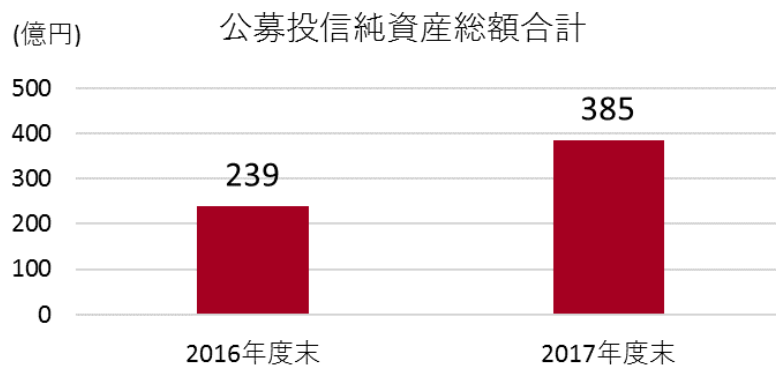
[図⑤] お客さま向けレポート発信件数



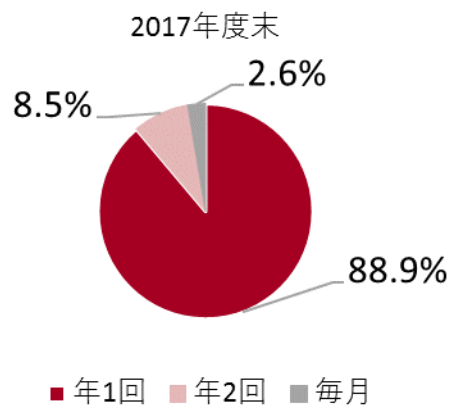
お客さまにふさわしいサービスの提供

- 幅広いお客さまのニーズにお応えすべく、2017年度は公募投信2本（日本中小型株ファンド、ほくよう資産形成応援ファンド）を新規設定しました。お客さまのご期待を賜り、公募投資信託の運用残高は増加しました。〔図⑥〕
- 一般的に、分配頻度の少ないファンドは、頻度の多いファンドに比べて運用効率が高く、お客さまの中長期的な資産形成に適していると考えられています。弊社では分配（決算）頻度が年1回のファンドを中心に運用を行っております。〔図⑦〕

〔図⑥〕 公募投資信託の純資産総額の推移



〔図⑦〕 公募投資信託の決算頻度別純資産総額比率



以上